

法然寺の御詠歌

松 濤 基 作曲
菊 地 謙 雄 振 付

要領

1. 道場散華の要領で按舞
2. 四人の群舞、四人を四天王に配し持国天を一生とし以下二、三、四生とする四人同じ動作が殆どで中心を正面とする
3. 散華を数葉づつ二組用意して帯にはさんでおく

唱え奉る法然寺の御詠歌に

中心に向かって正座合掌静かに立って両手を下す

歌	手	足
(休)	右手掌を上にして右側下から体前に	右足一步左足の前にして
お		
ぼ	すくいあげる様に眼前に捧げる	体重をかける(A図参照)
つ	左手掌を上にして左側下から体前に	左足一步右足の前にして
か	すくいあげる様に眼前に捧げる	体重をかける
な	「おぼー」と同じ要領を繰り返す即ち	「おぼー」と同様に右足一步左足の
	右手をすくいあげる様に眼前に捧げる	前に出して体重をかける
(休)	両手外側から下に廻し更に眼前から高く	踵をあげてスリ足で四人が中央に集まり
た		
れ	両側に開いて四人が連手する	踵をあげたまま両足を揃えて立つ
か	四人連手したまま顔を左方に向ける	右足一步交差する様に左足の左にふみ出し
		(二呼間)
		更に左足を一步左に出す
	四人連手したまま左方をながめて	「か」の動作を繰り返す
		都合四人連手したまま右足から四歩左廻りに
い		進むことになる

歌	手	足
｜	四人連手したまま両側へ	右足一步中心にふみ出して
｜		
け	手をおろして下を向く	立膝となる
｜		
｜	四人連手したまま上挙して	立膝のままでいる
｜		
ん	上を仰ぐ	
｜		
(休)		
こ	自然に両手両側におろしたまま	立ってつま先を立ててスリ足で右廻りして後方
ま		へ走る(四人四隅に走る)
｜		
つ	二呼間で蓮華をつまむ	
｜		両側を揃えて立ったまま
｜	空にまく(散華する)	
｜		
｜	「こま」と同様に両側におろしたまま	「こま」の動作と同じ要領で「つまさき」を
｜		
と		立ててスリ足で中心に集まる
｜		
は	「つ」の動作と同じ様に中心に向かって	両足揃えて立ったまま
｜		
｜	散華する	
(休)		

歌	手	足
こ	右手を右側から大きく上にまわして左胸に	右足一步後退して
ま	おく(右上を見る)	
つ	左手は自然に後方横へ伸す	体重をかける
と		
は	「こまつ」と同様に動作を左手で行い	左足一步後退して
	右胸におく(両手胸で組む)	体重をかける
(休)		
く	両手を胸から上にまわして	右足一步左足の後方に下げ体重をかける
も	両側におろす	(体は右向き)
を		
さ	前の動作に連続して両手下からまわして体前	左足右足の前から廻して右足のまうしろへ一步
	で交差させて頭上にあげ更に両側へおろす	出してクルッと体重を左向きとし左足に体重を
	(とまることなく同じ早さでまわる如くする)	かける
さ	「くもを」と同じ動作即ち前の動作に連続して	「くもを」と同じ動作で右足一步退いて右向きと
	両手下から上にまわして両側におろす	なる
う	前の動作に連続して同様に下から上にまわし	前の動作と同様に左足を右足の前から廻して
	て両側におろす	右足の後に出して体重をかける
	(都合四回を上、両側とまわすことになる)	(都合四歩後退して体を右左、右左と向きを
		かえる)

歌	手	足
る	両手体前におろした動作につづいて	そのまま体重を右足にうつして
	胸前から上に伸す(掌上)	上を見る(B図参照)
(休)	捧げている両手は中心からまわして両側に	偶数生(二、四生)は踵をあげてスリ足で奇数
た	水平に伸す(右手前)	生に近づき連手する
か	一生と二生、三生と四生が右手連手する	奇数生は足を揃える(C図参照)
ま	二人ずつ連手したまま(二人とも右手に連手)	奇数生はそのまま立っている偶数生は連手し
		た自分の手の下をくぐる様に踵をあげて
つ		スリ足で右まわり一回転して元の向きにもどる
の	連手したまま進む方向を指すよう顔を向ける	二歩走ってきた方向に進む
(休)	連手をといて両手を体の中心から下にまわし	偶数生右足一歩前に出して立膝となる
え	更に両側に開いて上にあげ	奇数生は右足一歩前に出して(二呼間)
	胸に合掌する	更に左足を右足に揃える
だ		
	以下合掌後徐々に顔を起して上方を凝視する	
	(八呼間)	

歌	手	足
(休)		
終って立ち本尊前に向き座して合掌低頭する		

ポイント注意

- 【たれーかー】 足の運び。円が小さくならないように右足を左足に交差させながらまわります。
- 【こまつーとはー】 蓮華の散華。「こまつとは」の「つ」と「は」の三拍目に散華します。
- 【くもをさーさーうーるー】 手の動き。常に手を中央にもっていくように舞います。ここでは大きな木を仰ぎ見るようにゆっくり捧げます。
- 【まーつーのー】 両生の足の動き。「たかまつの」の「の」から右生を出します。

図 解 説 明	A図 最初の位置	C図 たかまつのえだの時
		一生、二生、三生、四生共に右手を以って連手する
	B図 雲をささうるの時の位置	